

◎ 總同盟通信社第二十五回理事會議事錄

昭和十八年一月十四日午後一時十五分開會、同午後二時三十分閉會
會場 東京市麹町區內幸町一丁目一番地 帝國ホテル

理事總員 參拾六名

出席理事 貳拾貳名

高石眞五郎	山田金次郎	東孝彦
一力次郎	古村精一郎	林政武
小柳調平	小汀利得	小坂武雄
小森七郎	北野吉内	高宮太平
宮崎光男	浦田芳朗	清水順治
伊藤正德	關正雄	中島幸基

法人 同盟通信社

古野伊之助	畠山敏行	上田碩三
堀義貴	古賀傳吉	(常務監事)

委任狀 拾壹名

阿部暢太郎	東口眞平	荻野元太郎
野中楠吉	高田元三郎	田中清文
山本實一	木下猛	杉山榮
兒玉實良	伊豆富人	

議長 理事會長 高石眞五郎

會議經過

開會ニ先チ古野社長ヨリ前同理事會ニ於テ正副理事會長更迭ノタメ
今回ヨリ高石理事會長司會ノ下ニ開會ナルベキ旨ヲ達ス之ニ應ジ
高石理事會長就任挨拶ノ後議長席ニ着キ開會ヲ宣シ先ヅ新理事東幸
彦（北越新聞社）伊藤正徳（中部日本新聞社）高宮太平（京城日
報社）中島幸基（關門日報社）古村精一郎（秋田魁新報社）瀧田芳
朗（京都新聞社）ノ諸氏ヲ紹介シタル後議事ニ入ル

一、定款第二十一條第一項第四號ニ依ル理事候補費氏任期満了ニ付之
ガ改選並ニ常務理事一名決定ノ件

高石議長ヨリ堀常務理事ハ昭和十七年九月八日任期満了ノ處定款
第二十三條第三項ニヨリ今日迄任期ガ俾長サレ居ル次第ナルヲ以
テ之ガ改選ヲ行ヒ更ニ改選ノ上ハ定款第二十八條ニヨリ常務理事
一名ヲ決定シタキ旨ヲ達ス之ニ對シ小坂理事發言ヲ求メ堀理事ヲ

社団法人 同盟通信社

再選、更ニ常務理事ニ推薦スルコトヲ提議シ滿場異議ナク之ニ同
意シタリ

ニ、昭南新聞會ニ關スル件

古野社長ヨリ昭南新聞會創立ノ經過並ニ昨十三日開催セル同會ノ
第一回評議員會ニ於テ伊藤會長、小野理事長以下役員決定ノ旨ヲ
報告ノ上、理事ハ差當リ同盟通信社ノ現地ニ於ケル新聞紙製作擔
當者ヲ任命シタルガ將來ハ加盟各社ヨリ適當ナル役員ノ選出ヲ願
フツモリナル旨ヲ述ベ諒解ヲ得タリ

三、諸般ノ報告

(イ)社員新聞社異動ノ件

第二十四回理事會報告後、新加盟社十七社、合併又ハ廢刊ニヨ
ル退社四十三社ニシテ本年一月十日現在社員總數九十二社ナリ
(ロ)理事異動ノ件

一、御手洗辰雄氏（京城日報社）ハ昭和十七年七月十五日辭任、

後任理事トシテ高宮太平氏（京城日報社）就任。

一、池田正之輔氏（報知新聞社）ハ報知新聞社ト讀賣新聞社ノ兩社合併ニヨリ昭和十七年八月五日辭任。

一、阿部暢太郎氏（福岡日日新聞社）ハ昭和十七年八月二十五日福岡日日新聞社ト九州日報社ノ合併ニヨリ新設ノ西日本新聞社代表ノ理事ニ就任。

一、野村秀雄氏（朝日新聞東京本社）ハ昭和十七年九月十五日辭任、後任理事ニ北野吉内氏（朝日新聞大阪本社）就任、北野吉内氏ノ後任ニハ東口眞平氏（朝日新聞大阪本社）新任。

一、阿部良夫氏（北海タイムス社）ハ昭和十七年十一月一日北海道十一新聞社ノ合同ニヨリ北海道新聞社創立ト同時ニ辭任、新ニ東季彦氏（北海道新聞社）理事ニ就任。

一、大島一郎（新愛知新聞社）森一兵（名古屋新聞社）兩氏ハ新愛知、名古屋兩新聞社ノ合併ニヨル中部日本新聞社ノ創立ニ

社 團
法 人
同 盟 通 信 社

伴ヒ昭和十七年十一月二十日附夫々辭任、新ニ伊藤正徳氏

（中部日本新聞社）理事ニ就任。

一、高石眞五郎（大阪毎日新聞社）高田元三郎（東京日日新聞社）兩氏ハ大阪毎日、東京日日新聞兩社ノ毎日新聞社ト社名變更ニヨリ昭和十八年一月十一日附夫々大阪、東京代表ノ理事ニ就任。

一、小柳朝平氏（新潟日日新聞社）ハ昭和十七年十一月十日新潟縣中央新聞並ニ上越新聞社統合ノ上新設ノ新潟日報社代表理事ニ就任。

（ハ）職制改正ノ件

刻下諸般ノ實情ニ即應スベク當社職制ノ一部ヲ改正、昭和十七年九月二十一日ヨリ實施セリ

（ニ）國內支局ノ新設並ニ廢止

地方通信網擴充ノ爲メ左記支局ヲ新設、同報無線電信受信設備

ヲ爲ス。一方經濟通信購讀者減少ニヨリ廢止セルモノ左ノ如シ

△新設

佐賀支局 (昭和十七年七月開設)

台中支局 (同 八月開設)

△廢止

岡谷支局 (昭和十七年六月閉鎖)

松本支局 (同 上)

桐生支局 (同 三月閉鎖)

足利支局 (同 上)

(外)社屋並ニ附屬建物ノ件

本社ノ社屋對策ニ關シテハ豫テ現業理事ニ一任ヲ受ケ市政會館内ノ移轉、舊新聞聯合社跡ノバラック建築等ヲ急ギ漸次解決ヲ計リツ、アルガ、ナホ事務室ノ集中、自動車々庫、倉庫等ノ獲得ニツイテモ適宜ノ措置ヲ執リタキ旨ヲ述ベ之等總テ現業理事

社 團 法 人 同 盟 通 信 社

一任ニツキ承認ヲ得タリ。

(内)職員養老保險制度新設ノ件

本社職員ニ對スル福利厚生施設ノ一ツトシテ今回職員養老保險制度ヲ設ケ本年一月一日ヨリ實施セリ。保險金額ハ各員金三千圓(勤續三年以上ノ男子社員、同五年以上ノ女子社員)、及金一千圓(同准社員又ハ雇員)ノ二種、保險契約者並ニ保險金受取人ハ社長ニシテ五十五歲滿期ナリ。

右制度ノ實施ニヨリ年額約二十萬圓程度ノ支出ヲ要スル見込ミナルガ保險契約不適格職員ニ對シテハ右制度ニ準ジ自家保險制度ヲ設クル意向ナリ。

(下)經濟通信ノ件

當社ノ經濟通信收入ハ年額約四百万圓ニ達シ大ナル財源トナリ居ルモ時局ノ影響ヲ受ケ歐米依存ヨリ大東亞中心經濟へ移行ニ着目シ從來ノ外國經濟電報カラ東亞圖經濟並ニ各種產業別經濟

通信ニ重點ヲ置クベク内容ヲ改變シ減收ヲ防ギ極力増收ヲ計リ
ツ、アリ、一方業界ノ要望ニ基キ南方占領地域ニ於ケル産業經
済諸般ノ調査ヲ行フ爲メ彙ニ關係當局ノ諒解ヲ得先ヅ纖維業ノ
専門家ヲ當社職員トシテ訓練ノ上夫々現地ニ派遣シタルガ相當
ノ成果ヲ收メツ、アリ今後モ漸次右制度ヲ他ノ部門ニ及ボシ關
係方面ノ期待ニ副フベキ所存ナリ。

(イ) 南方通信施設整備ノ件

南方諸地域ノ通信施設ニツイテハ現地經設事情ノ内地ヘノ報道
ト並デ文化工作、宣撫工作、對敵宣傳等現地ノ思想戰遂行ノ必
要上軍ノ要望ニ應ヘツ、漸次支社局ヲ設置シ昨年七月昭南ニ南
方總局ヲ設ケルト共ニ今日迄ニ主要各都市ニ夫々支局ヲ設置シ
タルガ之等配屬人員ハ現地採用員ヲ含メ既ニ約一千名ニ達セリ
尙今後引續キ戰局ノ進展ニ應ジ支社局ノ設置並ニ整備擴充ヲ計
ル考ヘナリ。

社 團
法 人
同 盟 通 信 社

(ロ) 對外電信同報擴充ノ件

當社ノ國家的特殊使命ニ鑑ミ大東亞戰爭勃發以來總力ヲ擧ゲテ
内外思想戰ノ完遂ニ遺憾ナキヲ期スルタメ對外電信同報ノ擴充
強化ヲ計リ昨年四月ニハ二十キロワットノ專用無線電合一台ヲ增
設、合計四台トシ米洲向、歐洲向、大東亞向其他全面的ニ發信
語數ヲ増加シタルガ更ニ大東亞向同報ノ充實ヲ期スル必要ニ迫
ラレタルヲ以テ昨年十二月一日ヨリ發信無線電台ヲ更ニ一台増設
シテ合計五台トシ語數モ一日三万五千語ニ増加セリ
右ニヨリ一日ノ同報延時間ハ五十八時間、機械運用延時間九十
時間半ニ上ル次第ナルガ引續キ機械設備ノ增強ヲ俟ツテ對米、
對歐ヲ始メ全面的ニ擴充スベク努力中ナリ。

(ハ) 昭和十七年度收支概況ノ件

當社昭和十七年度ノ豫算ハ彙ニ御承認ヲ得タ如ク收支共ニ約一
千貳百万圓トナルガ大東亞戰爭ノ結果占領地域ノ擴大ニ伴ヒ經

費モ亦著シク膨張シ從テ本年度ノ決算ニ於テハ收支共夫々一千
五、六百万圓ニ達スル見込ミナリ。
右ハ當社ノ國家代表通信社トシテノ使命達成上已ムヲ得ザル次
第ナルガ對敵、對外宣傳戰ニ要スル經費ハ專ラ政府ニ於テ考慮
セラルベク努力中ナリ。
以上ノ如ク古野社長ヨリ夫々詳細報告シ、出席理事一同之ヲ諒承閉
會ス。

以上

議長
理事
理事

島名良五郎
伊藤 宗一
伊藤 宗一
伊藤 宗一

社 團
法 人
同 盟 通 信 社